

《公開ハイキング》

矢倉岳（870m）

T 喜資（総リーダー）

4月15日、昨秋に続き今年も実施しました。事前準備やコースの下見を行い初心者でも歩けるコースとしました。区報、ポスター、ホームページ等で参加者を募集したところ、思いもかけず8名の方の申し込みがありました。うち7名の方が事前打ち合わせに出席し、コースの案内や保険の事や会の宣伝をさせていただきました。

当日は、快晴とまでは行きませんでした。ハイキングには程よい気温でますますの登山日和でした。集合地の新松田駅には会員13名、参加者8名が集合して大所帯のハイクとなりました。新松田発8:40のバスで矢倉沢下車するもののバスが超満員で降りるのも一苦労でした。バス停の先を右に曲がるとトイレがあり、ここでストレッチをして体をほぐして登山開始。前田橋を渡り、進むと民家の壁に「←矢倉岳ハイキングコース」の案内板があった。公式な案内板ではないようだ。さらに舗装道を進むと、茶畑を見ながらの登山道になる。登山道は多少のアップダウンはあるもののほぼ登り通しである。途中には階段なども整備され、歩きやすい道である。基本的には迷うことはない1本道である。新緑の樹林帯からススキをかき分けるように登ったところが、矢倉岳山頂である。



<矢倉岳山頂で、集合記念写真>

山頂は、広くすでに大勢のハイカーで賑わっている。記念撮影をして昼食の大休止。脱落者もなく全員が無事山頂を踏むことができました。残念ながら生憎の曇り空で富士

山は雲の中でしたが、一瞬の晴れ間に山頂付近が顔を出しました。山頂には少しボロい木製の2mほどの展望台がありましたが、この展望台の意味は何なのでしょう。山頂は東側が樹林帯ですが他は遮るものがなく、晴れていれば富士山から箱根の山々が見渡せますので尚更感じましたが登ってしまいました。山頂からはいきなりの急な下りが始まりますが土がぬるりとして滑りやすい。ここを抜けるとあとは比較的穏やかな登山道で振り返ると矢倉岳が大きく見ることができます。10数分ほどの下りで「21世紀の森 酒水の滝→」の道標をみて万葉公園コースへ。万葉公園はその名のとおりに万葉集にうたわれた所らしく、歌人誰それが詠んだ歌の看板がやたらあるし、これは何と考えてしまう灯籠風でもあり吸殻入れ風でもあり設置の意味がよくわからないコンクリート製の柱？が点在していた。

車道を進んだ足柄の関所跡の前のトイレ休憩をして、足柄古道の名残の道を下った。ここを抜けると車道に出るが、際に山桜が1本満開であった。車道と登山道を繰り返しながら歩くと、やがて終点の地藏堂へ到着。すでに大勢のハイカーがバス停に行列していた。満員のバスに揺られて新松田駅へ到着し、ここで解散した。恒例の反省会を溝口で行い、参加者有志と会員の交流も行った。参加者の中から3名の方が入会し、大変嬉しい限りである。

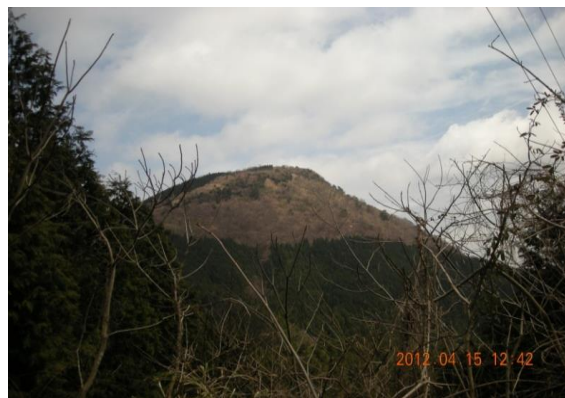
多くの会員の参加と協力があって、公開ハイクは事故などトラブルもなく成功裏に終わりました。参加いただいた皆さんにこの場をかりて御礼申し上げます。

*一般参加者 N原さよ子、N原寛、N井甫、S井庸太郎、S井洋子、O島四郎、F田広美、M川マユミ（敬称略）

*会 員 T L M附、SL T山、SL O原、Y崎、N島、N脇、S山、O澤、K村、H崎、O川、O崎



<足柄古道の山桜>



<矢倉岳>